

2013年度 代表事業②

事業名

11月度第一例会

世界に誇れる静岡に向けた運動の推進

委員会

未来の静岡創世委員会

委員長：山口 哲司

副委員長：田代 正樹

副委員長：永嶋 正彦

幹事：影山 智康



事業趣旨要約

アジアの諸都市の近年の興隆を鑑み、その流れの中にあっても静岡市がより一層存在意識を高め飛躍するために、青年らしい想像力で描いた未来像に理解を頂くとともに、青年会議所が共有することでまちづくり団体としての役割を果たさなければならない。

まず、断片的にメンバーの皆様へ考えていただいたアイデアを集約し明確かつイメージが湧きやすい形で発表し、このまちの未来に対する期待感を高める。また、まちづくり団体である青年会議所は自分対りで創り上げたこのまちの未来像への理解を深めるとともに、「我々がやらなければならない」という使命感を育む。

静岡青年会議所の英知を結集し創案されたこのまちの未来像が、今後のまちづくりの依りどころとなり、JAYCEEが有する行動力、青年らしい発想力が今後のまちづくり運動の大きな力になると考える。ひたむきに地域に対して運動を起こすことで、この広い世界の中でひととさわやかな「輝きを放つまち静岡」の創造に繋がると確信する。

背景

- ・静岡市は10年20年後にアジアを代表する交流都市になる可能性を秘めている。
- ・静岡市民の心が躍り主体的に取り組むようになるような、このまちの未来を描く必要がある。
- ・まちづくり団体である静岡青年会議所は、皆で描いたこのまちの未来像を共有しなければならない。
- ・他団体は静岡青年会議所がこのまちに対してどんな未来像を描いているか認識していない。

効果

- ・一つ一つのストラテジーを具体的に落とし込み、明確なイメージを描いていただくことで、このまちの未来像の背景、目的、最終到達点までの共有が出来る。
- ・冊子を配布することにより、アジアを代表する交流都市を目指す必要性、そのための施策となる一つ一つのストラテジーの理解が促進される。
- ・映像を上映することにより、青年会議所のエネルギーを改めて感じるとともに使命感を醸成する。
- ・我々一人ひとりがまちを創造することが出来るという意識を持つことで、まちづくり運動に積極的に邁進する気概を醸成できる。

例会の流れ・目的

【1】このまちの未来創案までの活動報告

- ・行政担当部署への取材活動及び会議
- ・事前アンケートを含む9月2日事業及びヒアリングキャラバンの報告

【2】詳細発表

- ①静岡JCがこのまちの未来を描く理由・・・何のために、誰のために描くのか②概要③アジアを代表する交流都市とは・・・交流都市の定義の説明④創案指針、経緯の説明⑤ストラテジー1～13の発表
1. 観光しやすいまち - 市民一人ひとりが観光大使
2. 魅力的な地域食文化に溢れるまち - 日本料理の代表「静岡料理」の創造
3. エコロジーなまち - ロマンチックでエコロジーな都市
4. 清潔で美しいまち - まちを彩るアートとクリーンネスの融合
5. 交通手段が充実したまち - スムーズな移動と楽しさ溢れるストリート
6. 子育てしやすいまち - 未来へと語りつがれる夢と希望
7. アジアの言語が通じるまち - 住みたいまち静岡、住みたがいまち静岡
8. 子育てしやすいまち - 未来へと語りつがれる夢と希望
9. 健康でスポーツが活発なまち
10. おしゃれなまち - 身なりや振る舞いを追求し、「粋」なまちを演出
11. 自然を楽しむ共生できるまち - 自然とふれあひ、心癒される空間
12. 安心・安全なまち - 心と心を隔てるものがない、ぬくもりの静岡
13. 美しい景観を有するまち - 真の霊峰富士に心奪われる空間

⑥全体のまとめ

- ・「アジアを代表する交流都市」に向けた総括・静岡市のブランディングについて・静岡のアイデンティティの源となる①認知度、②差別化の2大要素について

⑦～感じた可能性を使命感に～(映像)。

- ⑧まとめ
- ・映像が終わると同時に、このまちの可能性、青年会議所がこのまちの未来像を描かなければならない理由、まちづくりの先頭に立ち積極的に運動を起こしていく必要性を訴える。

■来賓総評

- ・静岡市副市長 山本克也様 ・静岡市まちづくり公社 理事長 佐野勝様

■例会後の発信方法

- ・静岡市長への提出 ・冊子の配布 ・冊子データの配布(静岡青年会議所、静岡市役所、まちづくり団体、経済団体HPへのリンク貼り付け) ・静岡新聞社への依頼 ・青年会議所の人的ネットワークを利用した発信

達成検証

事業目的に達した点:

- ・青年らしい未来像を発表することで行政の方々からは参考にさせていただくと前向きな評価をいただき未来像に対する共感をいただいた。
- ・飽きさせない演出をすることによりメンバーには未来像の共有そして多くのメンバーに協力していただいた映像によって使命感の醸成が成された。

所見

事業に対する所見

効果的に映像を組み込み、また青年会議所メンバーの社業に絡めて質疑応答をおこなうことで、このまちの未来像がより具体的なイメージで共有できたと実感した。

年初よりこのまちの現状、課題抽出にひたむきに取り組み、行政の方と相談をしながら進めてきた。また9月には事前事業をおこない青年会議所メンバーの青臭くも創造力豊かなアイデアを多数頂戴し、本未来像発表にいたった。10年後20年後を見据えたこの未来像がこのまちを動かす原動力となり、わがまちがアジアを代表する交流都市に飛躍し「輝きを放つまち静岡」の創造に向けて前進した。

年間活動に対する所見

このまち静岡の未来像を青年らしく壮大に描くことを目的に、年初よりこのまちの現状を調べ、課題を抽出し委員会メンバーと考え抜いてきた。「10年後20年後にアジアを代表する交流都市になる。」理事長の思いを具現化するために、まずはアジアを代表する交流都市とはどういうことなのかを考え、定義付けをし青年会議所メンバーからアンケートを行い、本未来像の柱となる13個のストラテジーを打ち立てた。策定指針を設け、アジアを代表する交流都市を目指す軸からふれないように、また青年らしく壮大な視点で立案した。その活動の中で我々は静岡市が世界に向けて発信できるもの、輝けるもの、それは物品のなものであるとおもてなしのころ、魅力的なマインドこそがアジアを代表する交流都市に向けてのポイントになると考えた。

目的

- ・静岡青年会議所がこのまちの青年らしくも壮大なこのまちの未来の姿を発表し、まちづくりの着眼点や発想へのご理解と共感をいただく。
- ・静岡青年会議所メンバーの発想力を持ちより創案したこのまちの未来像を全メンバーで共有する。
- ・アジアを代表する交流都市という最終到達点に向けてまちづくりを行う前向きな姿勢、使命感を育む。

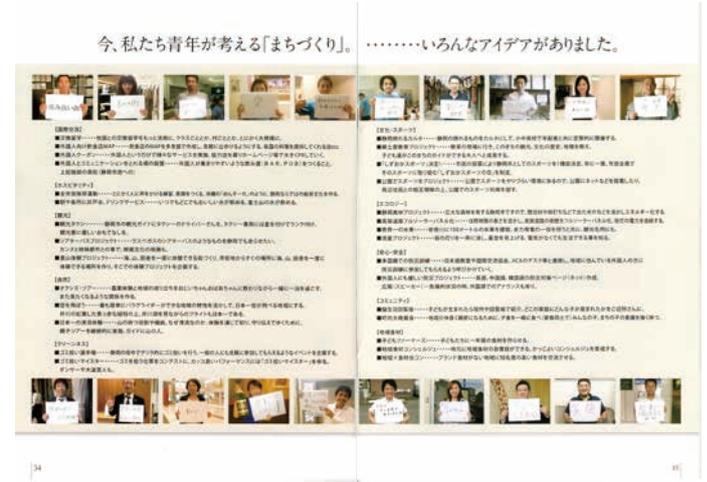
事業概要

日時場所：2013年11月15日、グランシップ

(別途 9月9日～9月23日 壮大なる中期ビジョン創案へのヒアリングキャラバン開催。)

参加人数：来賓80名 及び 静岡JCメンバー 158名

事業総額：1,027,915円



担当委員長Q&A

01 行政に関わる点においてや、まちづくりへのかかわり方などで、JCだからこそできるものがあると思います。山口さんご自身の考えを教えてください。

02 JCがまちづくりや行政に関わる意義など山口さん自身のお気持ちをお聞かせください。

03 事業を通し、「アジアを代表する交流都市づくり」のために具体的にどのようなことを行ってきましたか。

04 委員会メンバーはアンケートやヒアリングキャンペーンを通して多くのLOMメンバーと交流したと思います。実際メンバーの反応はいかがでしたか。

取材全体としてのまとめ・感想
我が町静岡の未来のまちづくりを考え、13のストラテジーを提案しました。その中で、多くの委員会メンバーの意見を吸い上げ今回の形に残しました。

05 事前アンケート調査の内容を見て委員長自身どんなことに気づき、それをどのようにして静岡LOMへ反映することができたか。

06 13のストラテジーを次年度以降に引き継ぐことに当たっての工夫などありましたら教えてください。

07 13のストラテジーは現在どのように活用されていますか。



取材前と後での特に気付いた点
10年20年後の静岡のまちづくりのために提案した13のストラテジーを引き継ぐことについて、JCの単年度制という問題が多少のハードルとなっていたことに驚きました。